

中部国際空港将来構想推進調整会議検討部会 議事録

1 日時

令和3年8月30日（月）午後4時30分から午後5時50分まで

2 場所

アイリス愛知 2階 コスモスの間

3 出席者

加藤 一誠	慶應義塾大学教授
秀島 栄三	名古屋工業大学教授
中野 牧子	名古屋大学准教授
森 哲也	愛知県都市・交通局長
湯澤 将憲	岐阜県都市公園整備局長（Web参加）
山口 武美	三重県地域連携部長（Web参加）
河田 誠一	名古屋市総務局企画調整監
内田 吉彦	名古屋商工会議所専務理事
小川 正樹	一般社団法人中部経済連合会専務理事
櫻井 俊樹	中部国際空港株式会社代表取締役副社長
各務 正人	中部国際空港株式会社特別顧問

<オブザーバー>

塩田 昌弘	国土交通省大阪航空局空港部長
井ノ口 寛	国土交通省大阪航空局中部空港事務所長

4 主な議事

事務局から、中部国際空港沖公有水面埋立事業、空港の現況と第二滑走路の必要性について説明を行い、意見交換を行った。現滑走路の日々のメンテナンス時間の確保、経年劣化に伴う大規模補修への対応、リニア中央新幹線との連携などの観点から、第二滑走路の早期整備が必要との意見で一致する一方で、空港西側工区の埋立完了までに15年を要するため、第二滑走路の供用がそれ以降となってしまうことが課題との認識を共有した。この課題への対応案については、空港会社で検討を進め、次回以降の検討部会で報告されることとなった。

5 主な発言

- ・滑走路の日々のメンテナンス、大規模補修は大変なことである。これまで大きな事故はなく、並々ならぬ努力を感じる。需要については、コロナ後を期待している。
- ・リニア中央新幹線の名古屋開業のタイミングにあわせて第二滑走路を整備したいとい

うのが地元の総意であり、経済界としてもそのように要望してきた経緯があるが、現状では完成がかなり先になりそうであり、非常に残念である。メンテナンスのことを考えても、こんなに先でよいのかと大変心配になる。第二滑走路の整備は地元の発展にとって不可欠である。このギャップを具体的、現実的にどう埋めるかが大きなテーマと思っている。

- ・舗装等の劣化過程を捉えてどういうタイミングで補修を行うか、アセットマネジメントと言うが、埋立完了まで待っていると補修にかかる費用が増加していくので、単に何年待てるかだけでなく、空港会社の経営を圧迫してしまう点も考えなければならない。その意味から、早く第二滑走路を整備できないものかと思う。需要よりも、この点の方が第二滑走路の必要性の理由になっているのではないかと。
- ・都市間競争をどのように勝ち抜いていくかという点からも、第二滑走路の早期整備が必要と考えている。交通アクセスについても議論を深めていきたいと考えている。
- ・モノづくりのサプライチェーンがグローバル化する中で、国際拠点空港である中部国際空港の機能拡充は必要不可欠である。滑走路が一本の現状では、メンテナンスの問題等で物流が妨げられるおそれがある。モノづくりの維持・発展に大きく貢献するという点を強くアピールすることが必要と考えている。
- ・第二滑走路の必要性は十分理解している。第二滑走路の整備を進めていくにあたって、漁業関係者へ配慮した議論を進めていくことも必要であると考えている。
- ・中部国際空港の機能強化については、国内外の空港利用者の利便性向上のため、道路アクセスや公共交通の整備が重要であると思っている。特に一宮西港道路ができれば、岐阜県や北陸方面のアクセスが各段に向上するので、空港利用促進施策として盛り込んでいく必要がある。リニア中央新幹線の整備も重要である。地域の財源負担についても、議論を進めていく必要がある。
- ・需要の話が出てくるが、人口が減少する中で経済構造は数年で変わらない。将来的な機会損失をなくすという点で、空港の整備というのは結局整備先行であり、受入れ態勢を整えることが大事であると実感している。また、関西国際空港では、経済界を始め地域が頑張っただけで造っていった。会社と地域の両輪でやってもらうとよい。

以上